
所 属 : 平和研究所

職・氏名 : 教授 水本 和実

URL : http://www.hiroshima-cu.ac.jp/modules/peace_j/content0025.html

研究キーワード : 核軍縮、原爆投下、被爆体験、国際協力、平和構築

■研究テーマ

① テーマ：核軍縮と被爆体験

概要：国際的な核軍縮の問題を、核兵器保有の現状、核兵器を規制する条約や国際的枠組みなど政治・外交の分野から研究すると同時に、アメリカによる核開発から広島・長崎への原爆投下、戦後の核軍縮などの問題を、外交史的な視点も踏まえながら研究しています。同時に、被爆体験という言葉で代表される広島・長崎における経験の今日的な意味を探り、それを核軍縮に生かす方策を模索しています。

② テーマ：広島発の国際貢献・国際協力

概要：広島市を含む広域の広島地域の多様な人材を活用し、紛争終結後の途上国などにおいて、新たな地域づくりに協力する可能性や具体的な方法、そのための枠組み作りや人材育成などについて、地元の研究者、実務家、大学・医療機関、行政機関などと、研究および実践活動を行っています。具体的には、カンボジアにおいて、広島県と独立行政法人国際協力機構（JICA）による復興支援プロジェクトや、ジャパン・プラットフォーム、NPO 法人「平和貢献 NGO ひろしま」および県内 NGO と提携した社会基盤整備事業などを進めつつ、その経験を今後の国際協力・国際貢献に生かすノウハウの蓄積を目指して研究会やシンポジウムを重ねています。

■研究テーマの応用例

広島平和文化センターや広島平和記念資料館における市民向け平和・核問題セミナー・講座
国際平和拠点ひろしま構想（広島県）

カンボジア支援プロジェクト（広島県・JICA）

カンボジアひろしまハウスを拠点とする支援交流事業

ひろしま復興・平和構築研究事業報告書『広島復興の経験を生かすために一廃墟からの再生』（2014年3月、広島県・広島市）

ひろしま復興・平和構築研究事業『広島復興の歩み』（2015年3月、広島県・広島市）

■主な著書、発表論文

・吉川元・水本和実編『なぜ核はなくなるのかⅡ——「核なき世界」への視座と展望』法律文化社、2016年

・水本和実『核は廃絶できるか——核拡散10年の動向と論調』法律文化社、2009年

・水本和実「核軍縮と広島・長崎——核の危険性と被爆地の課題」浅田正彦・戸崎洋史編『核軍縮不拡散の法と政治』信山社、2008年、247-270頁

・水本和実「2010年—2013年の核をめぐる動向と論調」小池聖一編『広島における原爆・核・被ばく関連の史・資料の集積と研究の現況』（平成23年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書）2014年2月、209-260頁

■想定される連携先

・広島平和文化センター・広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼祈念館

・広島県、ひろしま国際センター、JICA 中国

・広島女学院中学・高校